

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	教育部文化財課		■担当係	文化財係
■評価事業名称	文化財事業推進団体負担金			
■事業開始年度	平成3年度			
■評価事業コード	400600 - 271	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり		
	■基本施策	04 芸術文化の振興・国際交流の推進		
	■施策	02 ふるさとの文化財と伝統文化の継承		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称	文化財保護法			
■関連計画の名称	北上市総合計画実施計画			
■事業の目的と概要	文化財や史跡等の保護、活用、施設整備事業推進のため。負担金の納入、理事会・総会への出席、研修会への出席、文化財保護事業推進のための補助金要望運動			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成28年度事業計画	平成28年度事業量実績
01	岩手県文化財愛護協会負担金	岩手県文化財愛護協会	○年会費納入 ○理事会出席1回、総会出席1回。	○年会費納入 ○総会及び理事会は欠席
02	全国民俗芸能保存振興市町村連盟会費	全国民俗芸能保存振興市町村連盟	○年会費納入 ○総会及び研修会欠席。	○年会費納入 ○総会及び理事会は欠席
03	全国史跡整備市町村協議会負担金	全国史跡整備市町村協議会	年会費納入、大会出席1回。	○年会費納入 ○協議大会及び臨時総会欠席
04	全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会負担金	全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会	年会費納入、協議会総会出席1回、研修会出席1回。	○年会費納入 ○北上市長は理事 ○協議会役員会1回出席。○奈文研研修会派遣補助金により研修参加
05	岩手県史跡整備市町村協議会負担金	岩手県史跡整備市町村協議会	年会費の納入、総会及び研修会出席1回。	○年会費納入 ○北上市長は理事 ○協議会役員会1回出席。

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

# 事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
直接事業費	118	117	117	117	H26年度は岩手県史跡整備市町村協議会総会の開催会場となったため、準備等により人件費増。
人件費	76	463	1,043	75	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	194	580	1,160	192	

## 4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	指標の説明
01	負担金納入回数	5回	5回	5回	5回	事務事業の統廃合等整理により、活動指標を変更
02	総会研修会等参加回数	4回	2回	4回	2回	事務事業の統廃合等整理により、活動指標を追加
03	国県等補助金受領割合					受領額÷申請額×100
04	負担金納入1回当たりコスト					
06	参加回数1回当たりコスト					

## 5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■ 目標達成状況

A. 順調

B. 概ね順調

C. 遅れている

達成状況の分析

会議・研修に参加することにより、文化財の保護・活用や史跡整備等について課題を共有し、方策について情報を得ることが出来る。

問題点・課題等

全国規模の会議・研修会への出席は、経費の確保が困難である。

1. 直接的な受益者の範囲

不特定多数に及ぶ

特定されるが多数に及ぶ

特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

大きな不利益やリスクが生じる

ある程度の不利益やリスクが生じる

不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

類似の事業はない

類似の事業はあるが競合はない

類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

ニーズが高まっている

ニーズは変わらない

ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

先進的またはユニークな事業である

他と同程度の事業である

遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

民間委託等の拡充は難しい

民間委託等の拡充が十分に可能

全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

今以上の効率化や改善は難しい

効率化や改善を図ることは十分に可能

効率化や改善の余地が大きい

## 事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

### ■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

会議・研修に参加することにより、文化財の保護・活用や史跡整備等について課題を共有し、方策について情報を得ることが出来るため、継続が必要である。

### ■今後の方向性

- |                                         |                                 |
|-----------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> I. 拡充             | <input type="radio"/> IV. 廃止・休止 |
| <input checked="" type="radio"/> II. 継続 | <input type="radio"/> V. 完了     |
| <input type="radio"/> III. 縮小           |                                 |